



## ギャンブル依存症問題を 考える会

NEWS RELEASE

2014年7月14日

### 『ギャンブル依存症問題を考える会』設立フォーラムのお知らせ

平成26年8月3日、『ギャンブル依存症問題を考える会（代表：田中 紀子、英語名：The Society Concerned about the Gambling Addiction、以下 SCGA）』は、設立記念フォーラムを目黒区中小企業センターホールにて午後1時30分より行います。ギャンブル依存症問題にご興味のある方はもちろん、ご本人様だけでなくご家族、援助職の方、司法、医療関係者の方、企業の人事、総務等従業員管理に携わる方々や、学校関係者の皆さま方などどなたでもご参加頂けます。

このフォーラムでは、▲ギャンブル依存症基礎知識▲企業や学校におけるギャンブル依存症教育の必要性▲依存症先進国アメリカの取組みについて取り上げます。基調講演では、長らく産業医として企業に関わり、現在依存症の家族支援に携わっておられる筑波大学医学医療系社会精神保健学准教授の森田展彰先生が「日本の企業における依存症教育の必要性」について講演されます。また、故スティーブ・ジョブズと共に、日本市場でアップルコンピュータの復活を遂げた山元賢治氏に、「次世代を担う若者たちへ」というタイトルで今の学生に必要な真の教育とは何か？についてご講演頂きます。

#### ●『ギャンブル依存症問題を考える会(略称 SCGA)』設立の背景

ギャンブル依存症問題に携わる関係者により、平成26年2月6日に設立された SCGA は、ギャンブル依存症を取りまく背景を踏まえ、ギャンブル依存症に対する啓発活動、情報提供、予防教育を目的にしており、7月14日現在全国23都府県に支部が設けられております。カジノ法案が審議入りした現在、「日本にも早急に、ギャンブル依存症に対する予防教育の導入が必要」と SCGA は考えております。

「ギャンブルをやめたいのに、やめられない。」「ギャンブルをやめなければならないと、わかっているのにやめられない」自分の人生がギャンブルの問題のために破たんしていてもギャンブルをやめることが出来ない…それがギャンブル依存症という残酷な病気です。ギャンブル依存症は、WHO が定めている国際疾病分類「精神及び行動の障害 (ICD-10)」の中で治療すべき病気と定められており、正式名称を病的賭博と呼ぶれっきとした「病気」です。にもかかわらず、日本国内でこの事実を知る人は、少数にとどまっています。

現在、日本国内においてギャンブル依存症患者は、570万人との推計が発表されていますが(注1)、その中で治療を受けている依存症者は約2,000人程度と推計されています(注2)。加えてギャンブル依存症者の周囲には、その数倍に達するギャンブル問題に巻き込まれ苦しんでいるご家族がいます。ご家族にはご家族のためのセルフヘルプグループや家族会という支援の手に繋がることによって依存症者との適切な関わり方を学ぶことが必要であり、その結果、依存症者およびご家族にとって有効な手立てが取れるようになります。

SCGA は、1) ギャンブル依存症という病気についての啓発活動 2) ギャンブル依存症問題の解決策としての自助グループや治療施設の情報提供 3) 青少年に対するギャンブル依存症の予防教育 という3本柱のみを目標として掲げています(注3)。7月14日現在、青森、富山、新潟、長野、福島、山梨、群馬、栃木、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、愛知、三重、大阪、奈良、京都、兵庫、広島、福岡、鹿児島、沖縄の各地に支部が設けられており、今後も、協力者を募って全国に支部を設け、ギャンブル依存症という病気の知識を国民の皆様の隅々にまでいきわたるよう活動してまいります。SCGA がこのような活動を行うことで、ギャンブル依存症の正しい知識が広まり、多重債務、貧困、自殺、横領や窃盗といった犯罪、ネグレクトなどの児童虐待の社会問題に貢献できると考えており、たくさんの方のフォーラムへの参加を期待しております。



## ギャンブル依存症問題を考える会

### ※1 ギャンブル依存症の数

【出典】「わが国における飲酒の実態ならびに飲酒に関連する生活習慣病公衆衛生上の諸問題とその対策に関する総合的研究」(主任研究者: 石井裕正 慶應義塾大学名誉教授) 分担研究報告書: 「成人の飲酒と生活習慣に関する実態調査研究」(分担研究者 樋口 進 (独) 国立病院機構久里浜アルコール症センター副院長)

### ※2 ギャンブル依存症治療中の依存症者

ギャンブル依存症者の自助グループの数および参加者より推定

### ※3 SCGA の立場

SCGA は、ギャンブル依存症問題に関して、ギャンブル依存症問題、例えばカジノ建設などについて賛成・反対等の意見を持っておらず、国や行政に対しギャンブル政策への提言や陳情、署名などを行うことはありません。

#### <講師ご紹介>

##### ●田中紀子

ギャンブル依存症問題を考える会 代表

祖父、父、夫がギャンブル依存症者という三代目ギャンブラーの妻。

夫と共に、ギャンブル依存症の問題から立ち直っていった経験を伝えていきたいと、5年前よりカウンセラーとなり、ギャンブル依存症の問題を持つご家族からの相談に対応している。5年間で300名以上のギャンブル依存症者とその家族の支援に関わる。また、家族問題や、女性がどのように生きるか、トラウマや悲しみからのグリーフワークなど、数々のワークショップを主催し、「田中紀子のワークを受けると元気になる。」との評判を得ている。

##### ●森田展彰

筑波大学 医学医療系 社会精神保健学 准教授 医学博士。様々な不適応などの社会病理現象について、精神鑑定やフィールドワークを通して原因を解明し、精神保健対策について研究している。病院での診断・治療という枠組みにはおさまらないような、心理社会的な環境要因との兼ね合いで析出してくる精神的な問題へのアプローチを特徴とする。主要な研究テーマに、依存症問題を掲げている。

##### ●山元賢治

1959年生まれ、神戸大学工学部卒業。2004年7月アップルコンピュータ株式会社社長兼 米国アップル セールス担当バイスプレジデント、同年10月アップルコンピュータ株式会社代表取締役兼務。スティーブ・ジョブズと共に闘ってきた伝説の実力経営者。IBM、オラクルを経て、iPod ビジネスから iPhone まで国内最高責任者としてアップルの復活に大きく貢献。2009年9月コミュニカ有限会社設立。2012年2月株式会社コミュニカ代表取締役就任。現在は経営コンサルティング、顧問活動、執筆活動を手掛ける傍ら、自らの経験を活かし社会人・学生向けの人材育成研修、英語教育に取り組んでいる。

#### <関連サイト>

##### ●ギャンブル依存症問題を考える会 サイト

<http://www.gamblingaddiction.jp/>

##### ●ギャンブル依存症当事者の自助グループ ギャンブラーズアノニマス (GA)

<http://www.gajapan.jp/>

##### ●ギャンブル依存症者を家族に持つ自助グループ ギャマノン

<http://www.gam-anon.jp/>

#### 【本プレスリリースに関する問合せ先】

「ギャンブル依存症問題を考える会」事務局 広報担当 坂田

TEL: 03-3555-1725 FAX: 03-6280-5833 E-mail: info@fic-ag.org

Copyright 2014 SCGA All rights reserved.